メタルワングループにおける気候変動への取り組み

メタルワングループは、気候変動問題があらゆる産業・企業活動や、人々の生活が直面する喫緊の課題であるとの認識の下、2022 年に策定した『中期経営計画 2024』の成長戦略において、カーボンニュートラル社会実現への貢献と、メタルワングループの温室効果ガス（GHG）排出量ネットゼロを目標として掲げ、その達成に向けた取組みを推進しております。

ガバナンス体制

コーポレートカルチャー・DEI・サステナビリティ室では、メタルワン グループの排出量の状況や気候変動への取組みを一元的に管理・推進しています。同室の活動は、コーポレート管掌役員（法務、総務・安全衛生、コーポレートカル チャー・サステナビリティ）が管掌し、活動の進捗状況や気候変動対応の基本方針や重要事項等を検討・立案し、さらに、取組みの進捗をモニタリングし、取締役会へ報告しております。

戦略

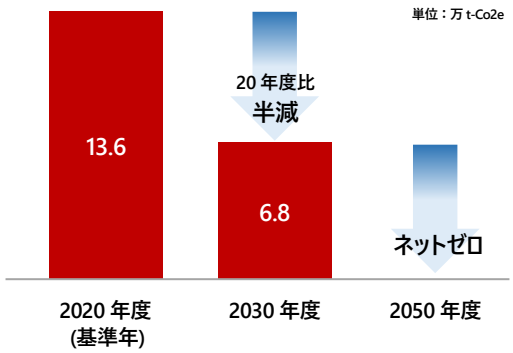
カーボンニュートラル社会への移行に関するリスクや機会を認識の上、脱炭素社会への移行リスク（炭素税の導入等）を定量評価するために、2023 年 10 月にインターナルカーボンプライシングを導入し、事業への影響を評価しています。また、気候変動によって生まれる機会を積極的に追求するために、2023 年 4 月に新設されたグリーントランスフォーメーション戦略室では、メタルワングループの川上からか川下に至るグリーン化（低・脱炭素）を志向した事業展開により、サプライチェーン全体に新たな価値を提供、特に、グリーンスティール、再生可能エネルギー、サーキュラーエコノミーの 3 つの戦略領域を事業の主軸とし、鉄鋼業界全体のカーボンニュートラルの実現を目指しています。

リスク管理

気候変動に関連する事業活動や投資へのリスクを特定、評価、監視し、対応策を講じるプロセスを導入しています。メタルワングループの業績や財政状態に重要な影響を及ぼす投資や事業計画の実行に際しては、事業リスク管理委員会が組成され、この審議プロセスにおいて、コーポレートカルチャー・DEI・サステナビリティ室が、気候関連リスクや影響を分析の上、意見具申を行い、経営判断要素として採り入れております。また、インターナルカーボンプライシングの適用により、排出量増減への影響を定量分析し、リスク評価しています。

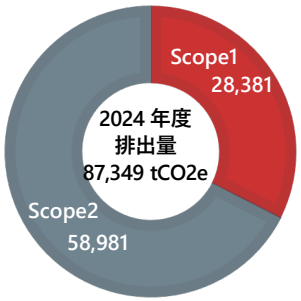
指標と目標

メタルワングループにおける GHG 削減に向けた取り組みにより、2020 年度の GHG 排出量(Scope1, 2)※1 を基準として※2、2030 年度に 50%削減、2050 年度にカーボンネットゼロ※3 達成という中長期目標を設定しています。
再生可能エネルギーの活用や電力消費量削減につながる具体的な取組みの実行により、継続的な削減を進めて参ります。



＜2024 年度のメタルワングループ GHG 排出量＞

Scope1	28,381 tCO2e
Scope2	58,981 tCO2e
Scope1・2 合計	87,349 tCO2e



※1　出資比率基準に基づく Scope1・2 排出量であり、関連会社の Scope1・2 排出量の当社出資持分相当分を含む。
※2　特に関連会社で十分に把握できていなかったデータが精度高く得られるようになった 2020 年度を基準年度としたもの。数値は精査の過程で微修正の可能性もある。
※3　削除努力を進めた上で、なお残存する排出量については、炭素除去を含めた国際的に認められる方法でオフセットを行う前提。

気候変動に関するイニシアティブ

メタルワンは、2023 年 4 月に気候関連財務情報開示タスクフォース（TCFD: Task Force on Climate-related Financial Disclosures）の提言に賛同すると共に、同提言に賛同する企業や金融機関等からなる TCFD コンソーシアムに参画しました。
気候変動に関する情報開示の透明性向上に努めると共に、持続可能な社会の実現に向けた取組みを一層強化して参ります。